



議長

大西洋紀

次の100年に向けて

このたび、明石市制施行100周年を記念して、明石市議会が1920年（大正9年）2月7日に初めて開会してから、現在に至るまでの足跡をまとめた「明石市議会100周年記念誌」を関係各位のご尽力により刊行できましたことは、誠に喜ばしい限りです。

わがまち明石は、瀬戸内海に面し、明石海峡と淡路島を臨み、海と空と島影が生み出す風光に恵まれたまちで、古くは万葉歌人柿本人麻呂によって多くの歌が詠まれ、竹取物語や源氏物語の舞台としても知られています。また、日本標準時、東経135度子午線の通る「時のまち」としても知られるほか、明石鯛やタコなどの新鮮な海の幸が捕れる「食のまち」としても有名です。

本市は、1919年（大正8年）11月1日に人口約3万2千人、面積7.7km²、全国で81番目、兵庫県下で4番目の市として誕生いたしました。その後、林崎村、大久保町、魚住村、二見町を合併し、それ以降は企業進出、住宅開発に伴う人口流入などを受け、今日では人口約30万人、面積49.42km²を擁する中核市へと発展してまいりました。

これまでの本市の歩みを顧みますと、戦災復興や高度経済成長に伴い大きく飛躍したばかりではなく、平成の時代に入ってから地方分権による制度改革やバブルの崩壊による経済の低迷、兵庫県南部地震や大蔵海岸での二つの悲しい事故も経験してまいりました。本年、市制施行100周年を迎えられますことは、諸先輩方が郷土の発展とともに市民の幸福という一つの方向を見つめ、幾多の困難に直面しても、不断の努力と熱意をもって乗り越えてこられた功績と改めて認識しているところです。

社会情勢の著しい変化とともに、市民の価値観の多様化や少子高齢化、人口減少の時代を迎え、これまでにない新たな課題が次々と発生する中、住民に最も身近な基礎自治体である市町村はその対応に迫られており、私ども二元代表制の一翼を担う議会の使命はより重いものとなってまいります。次の100年に向け、市民の信頼と負託に応え、一層信頼される開かれた議会を目指してまいりますので、皆様には変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、明石市政の発展の礎を築いてこられた全ての方々に心から感謝と敬意を表しますとともに、本誌刊行にあたりご協力いただきました関係各位に対し、厚くお礼申し上げご挨拶いたします。



市長

泉房徳

発刊を祝して

このたび明石市議会100周年記念誌が発刊されますことを、心からお祝い申し上げます。

本市は、大正8年11月1日、県下4番目の市として誕生して以来、多くの市民の皆様のため努力と英知により幾多の難局を乗り越え、今日に至るまで着実な発展を続けてまいりました。この間、歴代の正副議長をはじめ市議会議員の皆様には、市民の皆様の期待と信頼を一身に受け、不断の努力と熱意をもって本市の発展にご尽力いただきましたことに、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

次の100年に向けて、ふるさと明石の魅力を一層高めていけるよう、議会の皆様をはじめ、市民の皆様方と手を携えながら、子どもや高齢者、障害者をはじめ、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らし続けられる「いつまでもすべての人に やさしい」まちづくりに全力で取り組んでまいりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、明石市議会のますますのご発展と、市議会の皆様方のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



夏(7~8月)に干されるタコは、明石の風物詩です。

◇ 市のあゆみ

明石のまちのあけぼのを知るには、遠く100万年近い大昔にさかのぼります。明石海岸の地層や海底からは、洪積世の前期頃まで生きていたとされる「アカシゾウ」や、旧石器時代の人類とみられる「明石原人」など、ほ乳類や豊富な植物の化石が発見されています。

原始から、古代・中世を経て近世へと明石のまちは発展を遂げていきます。江戸時代には小笠原家10万石(後に松平家8万石)の城下町として栄えました。阪神と播磨との接点に位置するという恵まれた地理的条件を生かし、交通の要衝としての役割も果たしてきました。

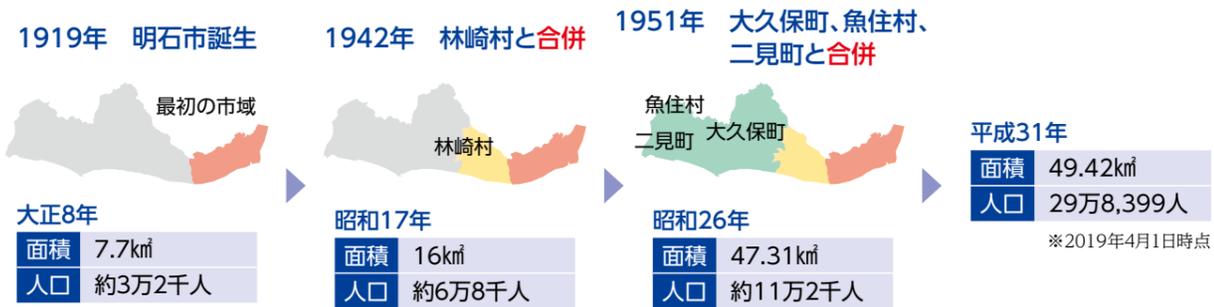
1919年(大正8年)11月1日。全国で81番目、兵庫県下で4番目の市として市制が施行されました。

当時の人口は約3万2千人、面積は7.7km²でした。その後、1942年(昭和17年)に1村(林崎村)を、1951年(昭和26年)には3町村(大久保町、魚住村、二見町)をそれぞれに合併し、2002年(平成14年)4月に特例市(2015年4月からは施行時特例市)、2018年(平成30年)4月からは中核市となり、今日では人口約30万人、面積49.42km²を擁する市に発展。特に、1960年(昭和35年)以降は、企業進出、住宅開発に伴う阪神都市圏からの人口流入などを受け、住宅都市・産業都市として著しい成長を遂げています。

◇ 二度の合併で市域広がる

1942年(昭和17年)に林崎村と、1951年(昭和26年)に大久保町、魚住村、二見町と合併しました。

1955年(昭和30年)には神戸市との合併について住民投票があり、反対多数で明石市として存続が決定しました。



◇ 明石市の位置、人口、気候

明石市は、兵庫県の南部に位置しています。東西の距離は15.6キロメートル、南北は9.4キロメートルと東西に細長い形で、面積は49.42km²あります。

市の東側と北側は神戸市に、西側は加古川市、播磨町、稲美町、南側は瀬戸内海に接しています。

また、市の東部には日本の標準時の基準となる、東経135度日本標準時子午線が通っています。

明石市には現在、男性が14万4,181人、女性が15万4,218人の合計29万8,399人が暮らしています。また、12万7,751世帯があります(2019年4月1日時点)。



明石市は、温暖で雨が少なく、年間の日照時間が2,196.1時間で、晴れの日が多いのが特徴です。おおよその最高気温が33度から35度、最低気温がマイナス6度から4度で、年間の平均気温は14度から15度、年間降水量も1,000ミリ程度と快適に住むことができる土地です。

◇ 市章

明石の「明」の字をデザインしたもの。1911年(明治44年)に明石町のマークとして決められたものを、1921年(大正10年)に市章としました。



◇ 市の花、市の木

1969年(昭和44年)、明石市の誕生50年を記念して、市の花に「キク」、市の木に「キンモクセイ」がそれぞれ決められました。



◇ 市の歌

1929年(昭和4年)、明石市の誕生10年目を記念して市歌が作られました。

明石市歌

尾上 柴舟 作詞
岡野 貞一 作曲

一、ほのぼのあけゆく 朝霧がくれ
沖ゆく白帆の 今なほさやか
古松のひまより 大城の櫓
高くもそぼだつ われ等の明石

二、にほへる島山 ひかれる潮路
よろしと賞でつつ いにしへ人も
東と西との 要路をしめて
つくりて伝へし われ等の明石

三、産業 工業 はた商業の
都となるべき さざしも著し
「栄一落 是春秋」も
よそにて栄えむ われ等の明石

四、祖先の心を 心としつつ
いよいよ高まる 理想をおひて
力をつくに 大きくきよく
新たにつくらん われ等の明石